

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年3月15日
【四半期会計期間】	第31期第1四半期（自平成28年11月1日至平成29年1月31日）
【会社名】	株式会社アールエイジ
【英訳名】	EARLY AGE CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 向井山 達也
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂二丁目11番7号 A T T新館5 F
【電話番号】	( 0 3 ) 5 5 7 5 - 5 5 9 0
【事務連絡者氏名】	管理本部 経理チーム ユニットリーダー 渡部 弘三
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂二丁目11番7号 A T T新館5 F
【電話番号】	( 0 3 ) 5 5 7 5 - 5 5 9 0
【事務連絡者氏名】	管理本部 経理チーム ユニットリーダー 渡部 弘三
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第30期 第1四半期連結 累計期間	第31期 第1四半期連結 累計期間	第30期
会計期間	自平成27年 11月1日 至平成28年 1月31日	自平成28年 11月1日 至平成29年 1月31日	自平成27年 11月1日 至平成28年 10月31日
売上高 (千円)	1,098,305	735,505	4,140,175
経常利益 (千円)	107,187	73,277	424,152
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	69,187	48,271	266,451
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	69,151	48,549	266,528
純資産額 (千円)	2,413,765	2,592,852	2,584,104
総資産額 (千円)	8,268,826	8,700,487	8,577,913
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	21.75	15.18	83.77
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	21.74	15.17	83.73
自己資本比率 (%)	29.2	29.8	30.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、企業業績や雇用環境の改善が続き、緩やかな回復基調にありますが、海外情勢は政経両面で不確実性を増してきており、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域である不動産業界におきましては、金融緩和による良好な資金調達環境を背景に概ね堅調な推移をしております。

このような状況の下、当社グループは、主軸である不動産管理運営事業で安定収益を確保する一方、都心部を中心に利便性の高い立地にフォーカスして優良な賃貸住宅の開発に努めてまいりました。この結果、当第1四半期連結累計期間の業績として、売上高は735,505千円（前年同期：1,098,305千円、前年同期比：33.0%減）、営業利益は85,188千円（前年同期：120,183千円、前年同期比：29.1%減）、経常利益は73,277千円（前年同期：107,187千円、前年同期比：31.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は48,271千円（前年同期：69,187千円、前年同期比：30.2%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

##### <不動産管理運営事業>

当セグメントにおきましては、賃貸住宅のサブリース運営業務および賃貸管理業務を、顧客サービスの質の向上を主眼としてグループ一丸となり取り組んでまいりました。この結果、不動産管理運営事業の売上高は709,572千円（前年同期：689,308千円、前年同期比2.9%増）、セグメント利益は138,169千円（前年同期：111,930千円、前年同期比23.4%増）となりました。

##### <不動産開発販売事業>

当セグメントにおきましては、賃貸住宅の開発と用地取得に注力し、収益機会を拡大する動きをとってまいりました。当第1四半期連結累計期間における販売、引渡しは計画どおりございませんでしたので、売上高の計上はなく（前年同期：380,113千円）、セグメント損失は14,005千円（前年同期：セグメント利益56,171千円）となりました。

##### <不動産仲介コンサル事業>

当セグメントにおきましては、効果的効率的な運営を目指し収益の改善に取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間における売上高は25,933千円（前年同期：28,882千円、前年同期比10.2%減）、セグメント利益は889千円（前年同期：セグメント損失6,110千円）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より122,573千円増加して8,700,487千円（前連結会計年度末比1.4%増）となりました。流動資産は108,858千円増加して、4,266,355千円（前連結会計年度末比2.6%増）となりました。流動資産増加の主な要因は、仕掛販売用不動産が312,089千円増加し、現金及び預金が190,021千円減少したこと等によるものであります。

また、固定資産は13,715千円増加して、4,434,131千円（前連結会計年度末比0.3%増）となりました。この主な要因は、建設仮勘定が22,856千円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債は、113,825千円増加して6,107,635千円（前連結会計年度末比1.9%増）となりました。流動負債は89,164千円増加して1,013,151千円（前連結会計年度末比9.6%増）となりました。これは短期借入金165,875千円増加し、未払法人税等が76,503千円減少したこと等によるものであります。固定負債は24,661千円増加して5,094,483千円（前連結会計年度末比0.5%増）となりました。長期借入金29,656千円増加したことが主な要因であります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、8,748千円増加して2,592,852千円（前連結会計年度末比0.3%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益を48,271千円計上し、配当金39,761千円を支払いしたことが主な要因であります。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成29年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年3月15日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	3,181,000	3,181,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数 100株
計	3,181,000	3,181,000	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成29年3月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年11月1日～ 平成29年1月31日	-	3,181,000	-	167,208	-	66,058

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式3,180,200	31,802	単元株式数100株
単元未満株式	普通株式 800	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,181,000	-	-
総株主の議決権	-	31,802	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式72株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注)当社所有の自己株式72株はすべて単元未満株式であるため、上記には含めておりません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年11月1日から平成29年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年11月1日から平成29年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、優成監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,195,623	1,005,602
営業未収入金	58,880	49,823
販売用不動産	1,999,099	1,991,907
仕掛販売用不動産	824,793	1,136,882
その他	83,964	87,509
貸倒引当金	4,864	5,369
流動資産合計	4,157,497	4,266,355
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,174,381	2,167,681
土地	1,924,924	1,925,242
建設仮勘定	45,568	68,424
その他(純額)	18,860	17,426
有形固定資産合計	4,163,735	4,178,774
無形固定資産	14,892	13,697
投資その他の資産	241,787	241,658
固定資産合計	4,420,415	4,434,131
資産合計	8,577,913	8,700,487
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	45,898	45,070
短期借入金	196,875	362,750
1年内返済予定の長期借入金	346,025	353,954
未払法人税等	96,622	20,118
賞与引当金	9,420	4,146
その他	229,145	227,111
流動負債合計	923,987	1,013,151
固定負債		
長期借入金	4,622,558	4,652,215
その他	447,263	442,267
固定負債合計	5,069,822	5,094,483
負債合計	5,993,809	6,107,635



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	167,208	167,208
資本剰余金	66,058	66,058
利益剰余金	2,348,257	2,356,767
自己株式	50	50
株主資本合計	2,581,475	2,589,984
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,996	2,274
その他の包括利益累計額合計	1,996	2,274
新株予約権	632	592
純資産合計	2,584,104	2,592,852
負債純資産合計	8,577,913	8,700,487

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年11月1日 至平成28年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年11月1日 至平成29年1月31日)
売上高	1,098,305	735,505
売上原価	830,760	520,695
売上総利益	267,544	214,810
販売費及び一般管理費	147,360	129,621
営業利益	120,183	85,188
営業外収益		
受取利息	1	1
保険配当金	72	71
貸倒引当金戻入額	19	-
未払配当金除斥益	-	90
その他	4	88
営業外収益合計	97	250
営業外費用		
支払利息	11,931	12,161
その他	1,162	-
営業外費用合計	13,093	12,161
経常利益	107,187	73,277
税金等調整前四半期純利益	107,187	73,277
法人税等	38,000	25,006
四半期純利益	69,187	48,271
親会社株主に帰属する四半期純利益	69,187	48,271

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年11月1日 至平成28年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年11月1日 至平成29年1月31日)
四半期純利益	69,187	48,271
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36	277
その他の包括利益合計	36	277
四半期包括利益	69,151	48,549
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	69,151	48,549

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年11月1日 至 平成28年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年11月1日 至 平成29年1月31日)
減価償却費	30,486千円	31,011千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年11月1日 至 平成28年1月31日)

配当金支払額

平成28年1月26日開催の定時株主総会において、次の通り決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	31,809千円
1株当たり配当額	10円
基準日	平成27年10月31日
効力発生日	平成28年1月27日
配当の原資	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年11月1日 至 平成29年1月31日)

配当金支払額

平成29年1月24日開催の定時株主総会において、次の通り決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	39,761千円
1株当たり配当額	12円50銭
基準日	平成28年10月31日
効力発生日	平成29年1月25日
配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年11月1日 至平成28年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	不動産管理 運営事業	不動産開発 販売事業	不動産仲介 コンサル事 業			
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	689,308	380,113	28,882	1,098,305	-	1,098,305
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	689,308	380,113	28,882	1,098,305	-	1,098,305
セグメント利益 又はセグメント損失( )	111,930	56,171	6,110	161,990	41,807	120,183

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 41,807千円は、各報告セグメントに配分していない  
全社費用です。全社費用は主に親会社本社の管理部門に係る費用です。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年11月1日 至平成29年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	不動産管理 運営事業	不動産開発 販売事業	不動産仲介 コンサル事 業			
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	709,572	-	25,933	735,505	-	735,505
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	709,572	-	25,933	735,505	-	735,505
セグメント利益 又はセグメント損失( )	138,169	14,005	889	125,053	39,864	85,188

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 39,864千円は、各報告セグメントに配分していない  
全社費用です。全社費用は主に親会社本社の管理部門に係る費用です。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年11月1日 至平成28年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年11月1日 至平成29年1月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	21円75銭	15円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	69,187	48,271
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	69,187	48,271
普通株式の期中平均株式数(株)	3,180,928	3,180,928
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	21円74銭	15円17銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	1,700	1,219
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 3月 8日

株式会社アールエイジ

取締役会 御中

### 優成監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 鷺海 量明 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 宮崎 哲 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 陶江 徹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アールエイジの平成28年11月1日から平成29年10月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年11月1日から平成29年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年11月1日から平成29年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アールエイジ及び連結子会社の平成29年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。